

かわだいせき 2. 河和田遺跡

所在地：坂井市坂井町河和田・長屋

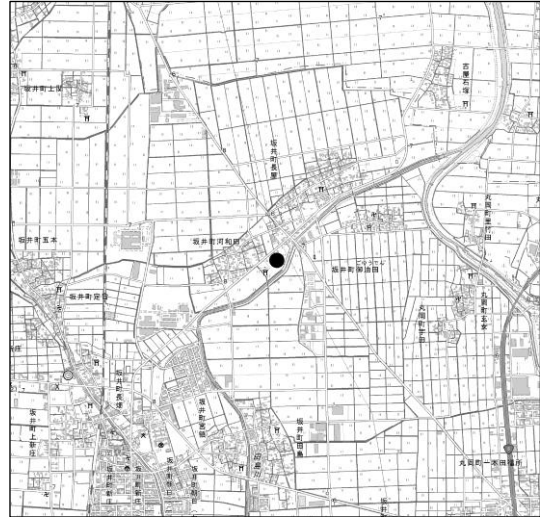
調査原因：北陸新幹線建設事業

調査期間：平成29年8月1日～10月31日

調査主体：福井県教育庁埋蔵文化財調査センター

調査面積：2,300㎡（表面積）

時期：弥生～古墳時代・中世



位置図（S=1/50,000）

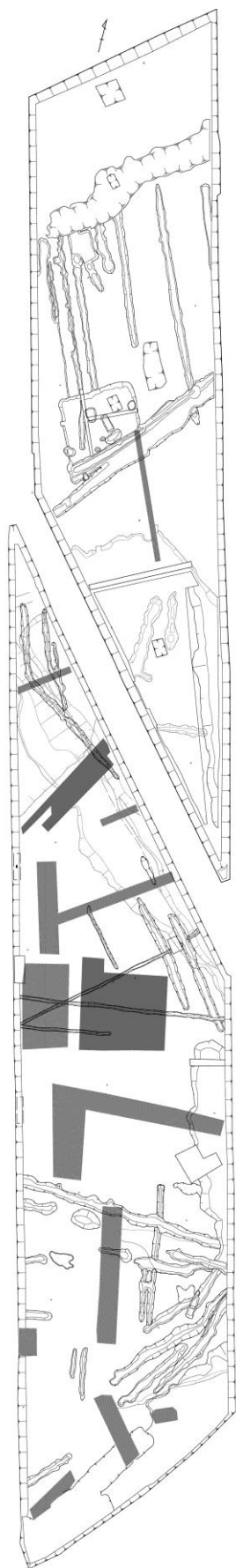
調査の概要 河和田遺跡は田島川北岸の自然堤防上に立地します。明治時代の終わり頃までは河和田から長屋集落にわたって自然堤防が残っていましたが、現在は河和田集落周辺の東西600mが残っている状況です。河和田遺跡が広く知られるようになったのは、明治時代の終わりに着手された耕地整理以後です。この耕地整理で畑地となっていた自然堤防を掘り下げ、集落南側の低地部分を土砂で埋めていった際に多量の遺物の散布が確認され、その中に碧玉製の車輪石未成品や紡錘石が含まれていました。当時、数名の考古学研究者が現地を訪れ、河和田遺跡の重要性を指摘しましたが、発掘調査は実施されませんでした。初めて行われた発掘調査は、昭和39年（1964）の國學院大学によるものです。調査は河和田集落西側の畑地で実施され、古墳時代の玉作工房跡が検出されました。その後、昭和55・56年（1980・81）には明治大学も河和田集落西側の畑地で学術調査を実施しました。両大学による発掘調査は調査面積が狭かったため、遺跡の全体像を知るには至りませんでした。

今回の調査は同集落南東側にあたり、一段低い水田になります。

遺構 調査区は排水路を挟み北と南に分かれ、それぞれを北区・南区としました。北区の北端部は表土直下で地山と考えられる黄褐色砂質土となりましたが、遺構は確認されませんでした。同区中央部では同様に黄褐色砂質土がみられ、土坑などの遺構が確認できました。これらの遺構は出土した遺物から中世に属すると考えられます。これより南側は南区を含め表土直下に造成土と考えられる土が堆積していました。この造成土上面で溝状の遺構を数条確認しましたが、これらの遺構の時期は不明です。また、この造成土下からも溝らしきものを確認しました。

遺物 遺物は調査区北側の遺構から土師質皿が出土していますが、遺物の大半を占める弥生土器・土師器は造成土中からの出土です。また玉作り関係遺物等も若干でありますが出土しました。

まとめ 今回の調査でも遺跡の全体像を知ることはできませんでしたが、本事業による発掘調査がまだ一部残っており、同地点の調査に期待します。（青木隆佳）



過去の発掘調査地点



調査区全景（北から）



調査区南側 全景1回目（北から）



調査区南側 全景2回目（北から）